社会学研究科

社会福祉学専攻
メディア学専攻
教育文化学専攻
社会学専攻
産業関係学専攻

社会学研究科とは

今、人間のあり方が大きく変わろうとしています。例えばグローバリゼーションと情報化、地域対立やテロ、仕事の疎外と失業、少子・高齢化と家族システムの揺らぎ、あるいは次世代の教育・人間形成のあり方の変化など、大きな社会変動によって人間のあり方が根本的な影響を受けています。

これらの社会変動に対応しつつ、人間にまつわる社会問題を解明するために、社会科学の人間化あるいは人間の視点から社会変動をトータルに究明する社会科学が求められています。また、社会を構成する諸活動の内的な構造特性に応じて体系化しつつ、それぞれの専門的対応が迫られています。こうした要請に応えて、2005年4月に従来の文学研究科から独立し、生活福祉の問題、社会の自己認識としてのマスメディア過程、人間形成における文化と教育の課題、人間と社会の諸関係、産業活動における人間関係などを人間的視点から究明する社会学研究科が発足しました。社会学研究科は、人間主義的な社会科学の一大拠点を目指します。

社会福祉学専攻

1950年4月に日本最初の社会福祉学専攻大学院修士課程として設置された歴史と伝統を有します。1986年には博士課程(後期課程)が設置され、学部教育から博士課程(前期・後期課程)を有しています。精深な学識を授け、高度な研究能力と専門性を有する職業能力を養うことに専念し、多くの人材(研究者や高度専門職業人)を輩出しています。

メディア学専攻

日本のファシズム化とアジア太平洋戦争を阻止できなかった主な原因の1つが、ジャーナリズムの貧困にあったという反省から、1948年の新制大学の発足とともに本専攻はスタートしました。1998年からは博士課程(後期課程)も設置し、日本のメディア研究の中心の1つとなっています。今後も、電子メディアを含む21世紀のメディアを研究対象とし、メディア状況の発展に寄与し、理論と実践の両面でリードできる教育・研究を推進していきます。

教育文化学専攻

多文化共生が現実のものとなっている現代社会における人間形成のあり方を、教育文化という独自の視点から研究することが本専攻の課題です。教育文化学とは、社会や文化の中に埋め込まれている人間形成的事象を広く研究対象とし、その構造や意味を問うものです。教育文化学研究には、理論研究、歴史研究、フィールド研究や調査などの方法を用いて、日本や世界の他の地域の教育文化を解明することが含まれます。本専攻が目指しているのは、教育文化の学際的研究を通して、多文化間の相互理解を促進し、問題解決に貢献することができる研究者や教育者、高度職業人を育成することです。

社会学専攻

激動し錯綜する世界社会をリアルに理解・分析するために、生活世界、現代社会、国際社会・国際関係という3つの分野から重層的に社会学研究を深化させることを課題としています。また、理論的・文献的研究能力の陶冶だけでなく、国際的なフィールド・ワークや社会調査の経験を積むことによって実証的な研究能力を持った専門家、研究者の養成を目的としています。

産業関係学専攻

雇用・労働研究の研究者養成を目指して設置された最も新しい専攻です。産業社会が大きく変貌する中で、企業組織の変革、雇用形態の多様化、グローバリゼーションに伴う海外展開と海外勤務者の増加、不透明さを増す新卒労働市場、職業生活に伴う精神的ストレスの増大などに注目します。雇用・労働現場に密着した職場、企業、社会レベルで事例研究と統計解析の能力を養成し、実際的問題の分析と、それに対する解決の方策を研究します。

アドミッション・ポリシー

詳細は Web へ

2023年度 社会学研究科 担当教員の研究テーマ

❶研究テーマ ❷研究概要 ❸論文・著書

社会福祉学専攻

木原 活信 教授

❶福祉思想史・福祉哲学、ソーシャルワークのナラティヴ論、キリスト教社会福祉論
❷社会福祉の根源にある価値、実践思想、哲学についての研究
❸①『ジョージ・ミュラーとキリスト教社会福祉の源泉』教文館，2023 ②『対人援助の福祉エートス』ミネルヴァ書房，2003 ③『J.アダムズの社会福祉実践思想の研究』川島書店，1998

小山 隆 教授

❶社会福祉学、ソーシャルワーク
❷対人援助の構造に関する研究ーソーシャルワークの固有性と他専門職との共通性。
❸①共著『ソーシャルワークの理論と実践ーその循環的発展を目指してー』中央法規出版，2016 ②分担執筆「援助専門職としての社会福祉援助」『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房，2012, 44-60.

空閑 浩人 教授

❶ソーシャルワークおよびソーシャルワーカー養成に関する研究
❷今日の社会状況のなかで求められる社会福祉実践としてのソーシャルワークの理論や方法、そしてそれを担う社会福祉専門職としてのソーシャルワーカーの養成のあり方に関する研究
❸①共著『ソーシャルワークの基盤と専門職』ミネルヴァ書房，2021 ②共著『ソーシャルワークの理論と方法』ミネルヴァ書房，2021

永田 祐 教授

❶市町村福祉行政におけるガバナンスの研究
❷市町村福祉行政におけるガバナンスという視点から、包括的な支援体制、高齢者虐待や成年後見制度利用促進といった権利擁護支援体制の体制整備のプロセスを研究している。
❸①『包括的な支援体制のガバナンス 実践と政策をつなぐ市町村福祉行政の展開』有斐閣，2021 ②『住民と創る地域包括ケアシステム：名張式自治とケアをつなぐ総合相談の展開』ミネルヴァ書房，2013

野村 裕美 教授

❶保健医療分野におけるソーシャルワーク
❷精神保健分野の周縁で活動するソーシャルワーカーの依存症回復支援
❸共著「医療ソーシャルワーカーの依存症への関わりの積極性に対する規定要因ー自己責任論に着目してー」『社会福祉学』2022, 63(3),28-40.

鈴木 良 教授

❶障害者の脱施設化とパーソナルアシスタンスの研究
❷海外と日本における障害者の入所施設から地域の自立生活への移行、とりわけ、パーソナルアシスタンス制度を活用した移行について当事者や関係者へのインタビュー及びフィールドワークを通して研究をしている。
❸『脱施設化と個別化給付〜カナダにおける知的障害福祉の変革過程』現代書館，2019

メディア学専攻

池田 謙一 教授

❶コミュニケーション文化の国際比較
❷特に政治コミュニケーションに力を入れ、アジアンバロメータ調査や世界価値観調査など国際比較調査に力を入れている。
❸①Contemporary Japanese Politics & Anxiety Over Governance, Routledge, 2023 ②編著『日本とアジアの民主主義を測る』勁草書房，2021

伊藤 高史 教授

❶社会学理論とジャーナリズムおよびメディア文化
❷ジャーナリズムの影響力を社会学理論、特に権力理論の観点から考察。また大衆文化について社会システム論の観点から考察。
❸①『ジャーナリズムの政治社会学：報道が社会を動かすメカニズム』世界思想社，2010 ②『「表現の自由」の社会学：差別的表現と管理社会を巡る分析』八千代出版，2006

河崎 吉紀 教授

❶メディア・ジャーナリズム・コミュニケーションの歴史研究
❷新聞記者の学歴を調査、イギリスのジャーナリスト養成の歴史、メディア出身の政治家について研究
❸①『ジャーナリストの誕生：日本が理想としたイギリスの実像』岩波書店，2018 ②『制度化される新聞記者：その学歴・採用・資格』柏書房，2006

小黒 純 教授

❶ジャーナリズム
❷とりわけ、調査報道、テレビ・ドキュメンタリー、ファクトチェック、情報公開制度など、権力とメディアの研究を、ジャーナリズムの実践的な立場から考察している。オーラル・ヒストリーにも関心があり、市井の人々の証言を記録していきたい。
❸編著『テレビ・ドキュメンタリーの真髄ー制作者16人の証言』藤原書店，2021

佐伯 順子 教授

❶メディアとジェンダーの学際的、国際的観点からの研究
❷メディアにおけるジェンダー表象をその歴史的、社会的背景とともに、国際比較の観点から学際的に研究する
❸①『明治<美人>論 メディアは女性をどう変えたか』NHK出版，2012 ②『「女装と男装」の文化史』講談社（kindle版あり），2009

竹内 幸絵 教授

❶広告史、デザイン史、歴史社会学
❷近現代日本社会におけるデザインと視覚文化、広告表象をメディアとして捉えた、実証的な広告史研究
❸①共編『開封・戦後日本の印刷広告：『プレスアルト』同梱広告傑作選：1949-1977』創元社，2020 ②『近代広告の誕生ーポスターがニューメディアだった頃』青土社，2011

教育文化学専攻

兒島 明 教授

❶人の移動と教育
❷移民第二世代の移行経験に関する研究
❸①共著『日本社会の移民第二世代ーエスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今ー』明石書店，2021 ②『ニューカマーの子どもと学校文化ー日系ブラジル人生徒の教育エスノグラフィー』勁草書房，2006

越水 雄二 准教授

❶フランス近代教育史
❷17〜19世紀フランスにおける近代教育システムの形成過程
❸①「フランス18世紀前半における女子教育思想の展開ーシャルル・ロランの女子教育論を中心にー」『教育文化』2020, (29)，1-24. ②「プロワイヤールの公教育論ーフランス近代公教育の形成過程を解明するためにー」『京都大学教育学部紀要』1996, (42), 123-132.

中川 吉晴 教授

❶ホリスティックな観点から見た人間形成
❷ホリスティック教育の理論・実践研究、アジアの教育観と実践の研究
❸①『ホリスティック教育講義』出版館ブッククラブ，2020 ②『ホリスティック臨床教育学』せせらぎ出版，2005 ③Education for Awakening: An Eastern Approach to Holistic Education, Foundation for Educational Renewal, 2000

奥井 遼 准教授

❶現象学的教育学、わざ研究
❷わざの習得や創造に関する身体論、対話・学び・コミュニケーションをめぐる現象学的記述
❸『〈わざ〉を生きる身体ー人形遣いと稽古の臨床教育学』ミネルヴァ書房，2015

William Robert STEVENSON III 准教授

❶The history and practice of education around the world.
❷The impact of nature on character formation using thee methods: surveys, historical literature, and fieldwork.
❸①From Total Environment to Sustainable Development, Transformation of Higher Education in the Age of Society 5.0, Springer, 2023, 67-78. ②Garden-Based Learning and Environmental Education: A Bird's-Eye View, Journal of Education and Culture, 2021, 30, 292-299.

山田 礼子 教授

❶With/afterコロナ時代における学生のグローバル・コンピテンスの習得の国際比較研究
❷コロナ禍を通じて世界の大学生のグローバル・コンピテンスの習得状況の比較をアンケート調査で実施
❸①編著 Assessing Change in Asia-Pacific Higher Education on the Threshold of the 4th Industrial Revolution : Facing the Challenges of the COVID-19 Era, PalgraveMacmillan, 2023, 170. ②『2040年 大学教育の展望ー 21世紀型学習成果をベースにー』東信堂，2019

吉田 亮 教授

❶日米キリスト教文化交流史
❷日米人による異文化理解のメカニズムを解明する。特に、米国「キリスト教文化」の日本への受容、日本文化の米国への受容の特質を史的に検討する。
❸①『アメリカ日本人移民キリスト教と人種主義』教文館，2022 ②『ハワイ日系2世とキリスト教移民教育』日本図書センター，2008 ③編著『アメリカ日本人移民の越境教育史』日本図書センター，2005

社会学専攻

藤本 昌代 教授

❶働く場(集団・組織)と社会構造、制度との関係分析
❷専門職・高学歴者のキャリア研究、AIと労働に関する事象(地域・世代・学歴・職業等の格差、働き方の変化、労働倫理等々)
❸共編『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成:国境を越えた人材流動化と国際化への指針』白桃書房, 2019

板垣 竜太 教授

❶朝鮮半島および在日コリアンの近現代社会史・文化史、文化人類学
❷植民地主義、冷戦、レイシズムをキーワードに、人々の行為主体性を重視しながら研究している
❸①『北に渡った言語学者』人文書院, 2021 ②共編『東アジアの記憶の場』河出書房新社, 2011 ③『朝鮮近代の歴史民族誌』明石書店, 2008

小林 久高 教授

❶現代日本の社会意識
❷政治、経済、地域社会、家族などに対する意識は相互に関連しており、その元には深層の社会意識ともいうべきものが存在する。この基層的な社会意識を理論的な観点から整理するとともに、経験的データをもとに、現代日本の人々の基礎にある社会意識の姿を明らかにする。
❸①「公共性の精神的基盤」『社会分析』日本社会分析学会, 2012, 39. ②「共同性の精神的基盤と社会階層」『評論社会科学』2009, 87, 1-28.

森 千香子 教授

❶国際社会学、都市社会学
❷都市空間とレイシズムの関係、多文化都市における共生と排除、セグリゲーション、ジェントリフィケーション
❸①『ブルックリン化する世界:NYのジェントリフィケーションと多文化共生』東京大学出版会, 2023 ②編著『移民現象の新展開』岩波書店, 2020 ③『排除と抵抗の郊外:フランス〈移民〉集住地域の形成と変容』東京大学出版会, 2016

尾嶋 史章 教授

❶社会階層と社会移動、教育社会学、社会調査法
❷教育機会や所得の不平等に関する計量的研究、Webを用いた社会調査の方法
❸①共編『高校生たちのゆくえ』世界思想社, 2018 ②共編『現代の階層社会1 格差と多様性』東京大学出版会, 2011 ③共著Quality and Inequality of Education: Cross-National Perspectives, Springer, 2010, 229-253, 275-297.

立木 茂雄 教授

❶平時の専門職主体の福祉サービスと災害時の地域住民主導の防災対策の分断が、災害時に在宅で暮らす高齢者や障がい者に被害が集中する根本原因であることを踏まえた、福祉専門職と共に進める「誰一人取り残さない」防災の基本技術の開発と、国内外での社会実装
❷平時の専門職によるケアプランに加えて、災害時に備えて近隣住民による個別避難計画を予め災害時ケアプランとして福祉専門職も作成に業務として関与する対策を開発した。2021年度の災害対策基本法改正では、このような取り組みがすべての自治体で努力義務化された。
❸①Longitudinal Impacts of Pre-existing Inequalities and Social Environmental Changes on Life Recovery: Results of the 1995 Kobe Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake Recovery Studies, International Journal of Mass Emgergency and Disaster.(in press) ②『災害と復興の社会学(増補版)』萌書房, 2022

鵜飼 孝造 教授

❶ネットワーク社会と資本主義
❷グローバリゼーションや情報社会が深化する世界の中で、環境と人の関係はどのように変化するのか?「ネットワーク」と「資本主義」をキーワードに研究している。
❸共著『社会ネットワークのリサーチ・メソッド』ミネルヴァ書房, 2010

産業関係学専攻

阿形 健司 教授

❶職業の社会学
❷労働市場における職業資格の効用や役割がどのようなものかを調査データを用いて実証的に明らかにする。
❸①「生涯学習における職業資格の二側面」『日本生涯教育学会年報』2014, (35), 33-44. ②「職業資格の効用をどう捉えるか」『日本労働研究雑誌』2009, 52(1), 20-27.

松山 一紀 教授

❶フォロワーシップ論、組織行動論、戦略的人的資源管理論
❷「こと・ば」=事業・共同体に従うことをフォロワーシップとして捉えることによって、組織における人間行動の発生メカニズムと、HRMへの応用および実装について研究している。
❸①『フォロワーシップ行動論:「こと・ば」と言葉』中央経済社, 2023 ②『戦略的人的資源管理論』白桃書房, 2015 ③『日本人労働者の帰属意識』ミネルヴァ書房, 2014

三山 雅子 教授

❶日本における非正社員労働問題
❷日本企業の雇用形態管理とそれが労働者にもたらすもの、つまり日本における非正社員労働問題を研究
❸「働き方改革とジェンダー・日本的雇用システム〜カイゼン・原価低減モデルの失速〜」『経済社会とジェンダー』2018, 3, 23-42.

寺井 基博 准教授

❶労働の法と政策
❷ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた法政策、産業関係学と労働法学の融合
❸①「日本的ジョブ型雇用の行方」『評論・社会科学』2022, (142), 21-37. ②「雇用におけるダイバーシティ&インクルージョンの意義ー女性活躍推進を分析の起点としてー」『評論・社会科学』2022, (140), 79-107.

冨田 安信 教授

❶多様な人々が活躍する職場づくり
❷壮年期の男性だけでなく、女性、若年者、高齢者、そして、障害者、外国人も活躍できる職場の雇用管理のあり方について研究する。
❸「高年齢者が活躍する職場づくり」『じんけん』2018

上田 眞士 教授

❶日本における雇用関係の制度的構築様式
❷仕事管理の制度的機構の記述と報酬管理の制度的機構の記述、その両者の論理的整合を通じて、日本における雇用関係のガバナンス様式の概念的な把握に、事例研究の方法で接近すること。
❸共編著『パナソニックのグローバル経営ー仕事と報酬のガバナンス』ミネルヴァ書房, 2022

浦坂 純子 教授

❶多様化する就業とキャリア
❷労働者が生涯にわたって様々な移動を繰り返しつつ持続的にキャリアを形成する過程を分析し、社会における適材適所の達成を考究する
❸①『あなたのキャリアのつくり方ーNPOを手がかりにー』筑摩書房, 2017 ②『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのかーキャリアにつながる学び方ー』ちくまプリマー新書, 2009

TOPICS 「グローバル・リソース」の視点から多文化共生の課題に挑む

博士課程教育リーディングプログラムとは、文部科学省が推進する、世界的に質の高い大学院教育を提供するための事業です。本学からはグローバル・リソース・マネジメント・プログラムが採択されました。

本プログラムに、社会学研究科からは、「社会保障研究」を提供しています。

前期・後期課程を一貫した本教育プログラムを学ぶことにより、「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の視点で、今日、最も困難な状況にある国から新興国までを対象に、強靭な精神と高度な倫理観を持って活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指します。